

シリーズ 希望の保育実践論 ついに刊行!

シリーズI「保育者—子ども関係論」の新たな提案

私たちがいまだ経験したことのない「互いの違いをおもしろがり、一緒に活動する楽しさをつくりだす保育」は、いかにしてつくられるのか?
最新の論争と、全国で出会った保育者たちの実践記録をひもときながら、時代が求める保育思想と実践の必須要件を解き明かします。



加藤繁美 ● 著

保育の中の子どもたちの声

自分の声を聴きとられる心地よさ
多様な声を響き合わせるおもしろさ

第1章 自分の声を聴きとられる権利
子どもの声を聴きとる責任
子どもの声に耳を傾ける意味

第2章 声を持つ自由 発達する自由 協同する自由
子どもの権利条約時代の子どもたちの声

第3章 リスニングと関係性の保育実践論
対話の時代の子どもの声

第4章 逸脱と参画の保育実践
多様性の時代の子どもの声



加藤繁美 (かとうしげみ)

1954年、広島県生まれ。名古屋大学大学院教育学研究科博士後期課程在学中に山梨大学教育学部に着任、以降2018年まで在職。現在山梨大学名誉教授。おもな著書に『子どもの自分づくりと保育の構造』『対話的保育カリキュラム〈上・下〉』(日本保育学会保育学文献賞受賞)、『保育・幼児教育の戦後改革』『子どもとつくる保育年齢別シリーズ(0～5歳児保育)』(監修、他多数(いずれもひとりとなる書房))。

続刊

希望の保育実践論Ⅱ「カリキュラム論」
希望の保育実践論Ⅲ「保育者論」

自分の声を聴きとられた子どもだけが
他の人を大切にすることができる

くわしくは
こちら



● A5判並製・192頁 ● 定価1,980円(本体1,800円+税) ● ISBN978-4-89464-300-0



ひとなる書房

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-17-13
TEL 03-3811-1372 FAX 03-3811-1383

ホームページ <https://hitonarushobo.jp>

きりとり線

*小社出版物のお求めは、この注文カードにて、こどものとも社、最寄の書店または小社までお願いします。 ご注文日 年 月 日

注文カード	書店印	ひとなる書房 〒113-0033 東京都文京区本郷 2-17-13 TEL 03-3811-1372 FAX 03-3811-1383	
	書名	希望の保育実践論I 保育の中の子どもたちの声 自分の声を聴きとられる心地よさ 多様な声を響き合わせるおもしろさ	冊
	著者	加藤繁美 ● 著	A5判並製・192頁・定価1,980円(本体1,800円+税) ISBN 978-4-89464-300-0
	お名前	お電話 ()	
ご担当 () 様	ご住所 〒		

シリーズタイトルに「希望」を冠した理由は、大きく言って三つあります。

一つ目の理由は、子どもの中に希望を育てることを、保育実践の大切な課題に位置づけたことにあります。子どもを育てるといふことは、子どもの中に喜びと希望を育てること。複雑で、不確実で、あいまいさに満ちたこの時代を生きる子どもたちにとって、未来を信じる気持ちと、他者に対する信頼を基礎に形成される希望の世界は、必須のものとなっていくはずです。

二つ目の理由は、未来を拓く新しい力の形成という課題に、保育実践が挑戦をはじめていることにあります。それは、子どもを発達する存在として尊重し、人間として尊重する努力を重ねてきた日本の保育実践が、さらに一人の市民として子どもを尊重する実践に挑みはじめたことと深くかかわっています。

これまで日本の保育実践が、子どもを権利の主体と位置づける努力を重ねてきたことは事実です。しかしながらそれでも現実には、乳幼児期を社会化の時期と考える思想からすっかり解放されたわけではありません。発達する主体として、人間として、そして市民として子どもを尊重しようとする、これまで見たことのない、新しい保育の地平を切り拓くことが求められることとなります。この、未だ見たことのない世界を切り拓く希望の瞬間に、私たちは立ち合い、その課題にチャレンジしようとしているのです。

そして三つ目の理由は、こうした課題に挑戦する保育創造の営み自体が、じつは混迷する社会の希望として機能していく点にあります。乳幼児を、社会の積極的構成員の一人として尊重する保育実践は、多様性に満ちた人間同士が、多様性を尊重しながら生きていく、新しい社会のモデルとなっていくのです。

もちろんそうした実践を創造することは容易なことではありません。子どもを未熟な存在と考え、社会の価値観に適応させることを大人の責任と考えてきた旧い子ども観・教育観に未だ支配されているのが現実です。しかも保育条件は劣悪なままですし、拡大した学校化社会の弊害が、保育の世界に影を落としているのも事実です。

しかしながら、小さな子どもとの間に対話的な関係をつくりだす保育実践の現場に未来を拓く可能性があることもまた事実です。そんな時代が求める保育の思想と実践を、子どもの声、カリキュラム、保育者という三つのキーワードをもとにまとめました。時代を拓く実践の創造に向けて、多くの議論が湧き上がり、実践の試行と交流がはじまることを期待しています。

(著者)

*希望の保育実践論Ⅱ「カリキュラム編」、Ⅲ「保育者編」は続刊になります。